

期末試験の前に！

1. 今学期で学習したことを確認しよう

- (1) 書き言葉と話し言葉の違い
- (2) 読みやすい文を書くことを心がける

適切な語の選択

文法事項の再確認（助詞、文末表現）

- (3) 事実と意見の違い、明確に書き分ける方法
- (4) 事実の記述はどのように行うか→kaynak, ve alıntılar çok önemli!
- (5) 事実に基づいた意見の表明

※最後に：1文の長さについて

1文が長すぎると、読み手に理解する負担をかけてしまう→読者が日本語母語話者でも同じことである

例

(1) 武田氏は先日東京に来たばかりであるが、その彼が田中氏に述べたことによると、彼に 2018 年度与えられた予算は前年度と比べて 40 パーセントも削減される予定であるとい、武田氏は怒りを隠せなかったという。

(2) 私が人生において大切にしていることは 3 つあって、それはいつも元気でいることといつもすぐに結論を出さないでよく考えることと周りの人たちを大切にすることですが、実際にはこのうちどれも守れていないのでこれからは気持ちを入れ替えて努力する必要があります。

2. なぜ文が長くなるか→1つの文で2つ以上の内容を表現しようとしてしまうため

原則として、1つの文では伝えたい内容は1つだけでよい

3. 文を適切なところで「切る」→句点をうち、さらに別の文で別の内容を説明する

修正例

(1') 武田氏は先日東京に来たばかりである。その武田氏が田中氏に述べたことによると、武田氏に2018年度に与えられた予算は前年度と比べて40パーセントも削減される予定である。武田氏は田中氏にそのように述べる際、怒りを隠せなかったという。

練習問題：

1. 例を参考にして、上記(2)の文を、読みやすい文に書き換えてください。

2. 以下の文を、より適切になるように修正しなさい。

ドルムシュはトルコの交通手段の一つである。トルコではその他の公共交通機関としてバス、ミニバス、メトロバスに乗られる。ドルムシュは毎日、大勢の人を利用されている。ドルムシュはバスと一緒に、決まった道筋があり、料金は乗客が乗ったところから降りたいところまでの距離によって決める。あの料金は現金で、タクシーと同じく、直接に運転手に払う。ドルムシュは乗ったらすぐに料金を払うのが好ましいが、降りる前に払う人もいる。ドルムシュが混んでいる場合、もし運転者のところまで行くことができなかつたら、前の人にお金を渡すという手段も珍しくない。このような各乗客がお金を自分の前にいる人に渡して、一番前の人がお金を運転者に渡す。バスと比べると、ドルムシュのいい点の一つは速さです。そのため、特にラッシュアワーにドルムシュを利用するのは楽だと言うだろう。しかし、ドルムシュはバスと違って、きまった停留所がないため、タクシーと同じく、乗客の降りたい場所で降りることができる。その時に運転者に聞こえられる大きさ

の声で、"Müsait bir yerde ineceğim"（降りたいという意味）と知らせるのが重要である。

3. 以下の文章を読み、より読みやすく直しなさい。

トルコと聞いて多くの人の頭にまず浮かぶのは、ほぼ間違いなくイスタンブルだろう。

それも、ヨーロッパ側の旧市街の歴史的遺跡が密集している地域、または新市街の目抜き通り、イスティクラール通りあたりの風景に違いない。もちろん、そのイメージは間違っていない。なんといっても、トルコの最近の経済的な好況を最もわかりやすく反映している街だし、いろんなタイプの人たちが行き来している多様性にあふれた街でもある。世界各地から観光客が訪れるということだけではなく、トルコ国内からも各地から人が集まってくる。そういった意味で、イスタンブルこそトルコの縮図ともある意味では言えるかもしれない。

しかし、ではイスタンブルがトルコという国の全てかと言えば、それにはやっぱりノーと言いたくなる人も多いに違いない。地図を見ればわかることだけど、トルコは国土の9割近くがアナトリア半島（つまりアジア側）で占められていて、ヨーロッパ側は、全体の国土で言うところごくごくわずかな部分にすぎない。先ほど話に出たイスタンブルも、そのうち半分はアジア側（アナトリア半島）にまたがっていてもいるし、面積でいえば国土全体の10パーセントもないはずである。

そのアナトリア地方に目を向ければ、各地に、イスタンブルにはない魅力があることもよく知られていることである。首都アンカラ（ここはまあ確かに観光資源としては何も無いかもしれない）、おそらくイスタンブルの次に観光地として人気があるであろう、カッパドキア地方。その他諸々の世界遺産もアナトリアのあちこちに点在している。たとえばイスタンブルの観光地を色々見て回るには、最低でも1週間くらいは時間が欲しいところではあるのだけれど、アナトリア地域も含めたトルコ全体をくまなく見て回ろうと思ったら、とても1週間では足りない。黒海沿岸、エーゲ海地方、地中海地方、東部アナトリア、中央アナトリア（首都アンカラやカッパドキアはこの地域）、それに南東アナトリア。それ

AÜ Yazırı Anlatım I 11. ders

ぞれ特色があつて、観光で行くとすれば、1 ヶ月程度あつたとしても全てを見てまわることは難しく、自分に許された滞在期間のリミットが惜しくなるに違いない。トルコ旅行のリピーターは少なくないだろう。リピートしてしまう理由とは、要するに1度行っただけでは全部を見た気になれないということに尽きるのではないだろうか。

(吉村大樹「イスタンプルの向こう側—トルコ南東部に少しだけ行ってきた話—より抜粋)

Sınavda bol bol başarılar!